

## 6. 第六回懇親会(2007.07.28)の後半から

### 1) 島田 慶甫 様

通研の2号館、3号館をご存知だと思いますが、なぜこの建物が出来たかまでは知らないのでは、と思うのです。今井さんとか古い方はご存知だと思いますが、私は最近知ったのですが、NTTの退職者の会というのがあって多少私も関係しておりますが、それとは別にNTTの現役の会もありあります。その会の機関紙に今年は経営者の経験談を載せたいとの意向があって、話を聞ける適当な人はいないかと相談が私のところがありました。

今回は、今の建物のある武蔵野通研のそれ以前にあった「中島飛行機の体験談」を載せたいので、体験者を探して下さいというものでした。爆撃があった時には私は神代にいて遠くから見ていましたが、詳細は分らない。たまたまその工場にいたという90歳ぐらいの人が見つかりましたがその人は現在特養ホームに入っている人で、話が出来ないことがわかりました。中島飛行機ではエンジンを作っていて、その子会社でキャブレターの製造をする工場もすぐそばにあった。そのキャブレターの工場に務めていた人がたまたま退職者の会員にいたということで、その人と現役の執行委員と私の三人で対談をしました。

通研の前身は「中島飛行機」だった。中島知久平が作った。この人は「方位」にこだわっていたので、「この方角がいい」と言って工場を作った。工場は当時ドイツの最新鋭の設計図を基にして武蔵野の工場を作ったようです。戦争を想定して地下道を作った。建物は全部地下でつながっている。その様にして2号館、3号館が出来たのです。皆さんが来たときには3号館の半分は爆撃で無くなっていましたが、日本での最新鋭の工場であったそうです。当時は関連会社を含めて3万5千人から4万5千人いたそうです。

時々思うのですが、会社に100人いれば、一番から100番までいるわけです。毎年多くの優秀なマスターやドクターが新卒者として通研に入って来るのをみていましたので、今井さんの所に来る卒研究生はこれで社会に出て勤まるのだろうか、と心配したりしました。

でもそれは余計な心配でした。今皆さんにお会いすると、素晴らしい人ばかりです。私は当時の卒研究生にお会いしたり、色々な人に会えて、いま私は幸せだと感じております。



左：岡本様 右：島田様

### 2) 伊藤 恭弘 様

卒業後の数年間はメカ的设计に携わってございましたけれど、2年半位で父が脳梗塞になり、その関係で実家に帰り家業を継ぐことになり現在に至っております。

私もこの会には初回から参加させていただいておりますが、人との繋がりというのを大切にしております。先日火災に遭いまして、何から何まで全部焼けてしまい大変でしたが、いろいろの業種の方とお付き合いをさせていただいていることから焼け跡の廃材なども処理していただきました。その節は皆様にご心配いただき本当にありがとうございました。

( 今井先生：卒研究生だった頃の伊藤さん達と丹沢の麓に行ってシシ料理を食べた記憶がありますよ )

### 3) 小野 雅敏 様

今井先生のところで卒研をやらせていただいたのがきっかけで、早稲田大学大学院に入り、修士を経て、昔の電気試験所に入所し、電子技術総合研究研、情報処理振興事業協会などを経て、今は船井電機の研究所を3年前に立ち上げました。その研究所はコンサルト事業を行っている佐々木正さん91歳、が始めた事業です。その91歳の人から見ると、私などは25歳も若いので、疲れたなどとは言えないわけで、えらいところにいるわけです。昔今井先生のところでやっていたような、結構面白い仕事をやらせて貰っています。仕事場の関係で川崎にも住居があり、週末になると家族のいる筑波へと帰るような二重生活をして

います。

今一番エキサイティングなのはナノサイズで、20 ナノぐらいのメモリーの世界です。これも今井先生のところで実験の味を覚えたことが今役立っており、振り返ってみれば大変ラッキーだったと思っています。

卒研当時、先生達と旅行に行った丹沢温泉の写真も有るかもしれませんので探してみます。

今井先生:会報第1号には小野さんが提供してくれた写真が多数あったので、この会報がスムーズに発行出来ました。写真は白黒ですが、エサキダイオードの実験風景などが鮮明に写っています



小野 様

#### 4) 橋本 潔 様

卒業後TDKに入り、平賀さんには大変お世話になりました。そこには21年間いましたが、会社というところが私の体質に合わないところもあって、辞めさせていただき、その後、今の会社を作りました。自分の会社ですから、時間はいくらでも自由になります。この会社も22年になりました。

皆さんにお聞きしたいのですが、理科大を卒業して理窓会費を払った方に配布されている「理窓」という雑誌ですが、そこに私の会社の広告を半頁載せています。ご覧になった方はおられますか？

昨日、この広告を見たS32年卒の先輩から電話をいただき、お会いすることになっております。

(小野さん:私のところからもいろいろ治工具関係の仕事を発注させていただいており、助かっています。100万円は既に越えていますね)

チェロの他にリコーダーの楽団もやっており、インターネットでダウンロードすると聞けますので試してみてください。殆んど聞いていただいていたのではないのです。



左: 伊藤様 右: 橋本様

今、家を建てています。耐震基準があるので、外装は自分ではできません。自分でやるのは中だけです。天井は張らなければ安くできるが梁がむき出しになる。そこで一階の天井は杉の板を張った。

天井が杉で、壁が石膏ボードのままでは淋しいので内張りの壁は檜にしよう。今檜の10mm厚の板がどーんと運ばれてきている。角っこをただ付き合わせるのでは見栄えが悪いのでコーナーを45度に切り合わせなければだめだ、となった。私の技術では無理だと分ったが、今はいい工具がある。5~6万円も出せば買えるという。完成予定は8月末で、半分は出来上がる。

2階部分は完璧にゲストルームとして出来ている。田舎をちょっと見てみたい、とか畑を見たいという方は泊まれるので、いらして下さい。上野から京成本線で京成佐倉の一つ手前の「京成臼井」駅で下り、駅から600m真南の「佐倉市王子台4-4-13」です。

(今井先生:橋本さんが送ってくれた野菜は実に新鮮で、あのような食生活や、いい空気での生活は実に羨ましいと思いましたがね。それに橋本さんの提示してくれた「宇宙観」、どうぞご覧になりますか。このような宇宙観と実生活と、これはすばらしいですね。橋本さんには感心いたします)

#### 5) 鈴木 威一 様

今日配られている私の近況報告のところ、変化のあった所をお話させていただきます。



今井先生のところの卒研生は昭和 42 年で終わっている。その前の年の我々の生徒の成績が余りにも悪かったために生徒の受入れが中止になったのではないかと勘ぐったりしています。

60 歳の定年を過ぎてから今までの会社勤めを辞め、自分のコンサルティング会社を作り、また仕事を始めております。丸 3 年と半年になります。経営コンサルティングの方を主にやっております。自分で稼ぐのは大変だ、サラリーマンはその点楽だなという感じは受けております。退職して始めたからには、世の中の為になることをやりたい、ということを目ざに掲げたものですから、今更退く分けにもいきません。世の中の役に立つというとすぐに手を出してしまい、そういうものはなかなか儲からない、というのが実情です。

1 番目、にある国際知財流通業務。特許をはじめとして知的財産権については政府も応援をしておるわけですが、国内での知財は大変うまく行っているが、本当は外国に売ってはじめて日本国家のために効果があるはずなのに、外国からは殆んどお金が取れていないという事情がある。これでは片手落ちです。(国の補助金を中で回しているやつが悪い。)たまたま外国の関係の仕事をしていたわけで、なんとか外に売る仕事は出来ないものかと思ひ、今はメインにヨーロッパに日本の特許を売るという仕事をやっています。これが国際知財流通業務という仕事です、

もう一つ最近始めたのはこれも政府がいろいろとやっていますが、日本の農業を活性化させるためにその農産物を外国に売る、という農水省ではいろいろぶち上げてはいますが、それを外国のためにやっている人は誰も居ないといっているくらいで、先日中国にお米が行くというのが話題になりましたが、日本の優れた農産物を輸出することで、若い人で一生懸命農業をやろうという人達がいて、いい物を作っているにも拘わらず、それが成功しないというのをなんとかかしたいという人のために応援したい。

相談に来た人は、専門のところはやるから鈴木さんが外人とのルート作りのところをやってくれないか、という。私は半導体屋なので農業とは全く関係ないわけですが、今日は二回ほどタイに行ってきた、日本の農産物を出す約束をしてくれております。

2 番目、にある「若いベンチャーの会社」というのは、20 代の若い人がベンチャーを始めたので経営を手伝ってくれというのがありまして、その会社の「無償の会長」ということを引き受けました。

3 番目、のボランティアとしてやっている「一期一会」は先週 12 回目が終わりましたが、この交詢社の会議室を使っております。シャープの佐々木正さんの、一番弟子の一人であった副社長、三沢さんに今回講師をお願いしました。三沢さんはマラソンに挑戦しておりまして、「走る」というテーマでお話を伺いました。この「一期一会」の会の目的はお年寄りなどの経験が、なかなか若い人に伝わっていかないということから、経験談を伝えたいという主旨で始めたものです。参加者は学生から 80 歳までおります。情報交換と勉強の会を兼ねて行っております。

4 番目、は不本意ではありますが、帰ってくるものと思ひ娘をデンマークへ勉強に行かせたところ、デンマーク人になってしまいました。



左：鈴木威一様 右：齋藤様

5 番目、では、もう 65 歳になり、手を広げ過ぎないように、取捨選択をしていきたいと思っております。

この卒研生の会は、大学も学年も違うわけで、お互い面識がなかったわけですが、この会によって、学年を越えて知り合うことが出来ております。これは今井先生の人徳の致す所だと特に思ひます。また、お互いが率直に話し合える会になっていることで、大変ありがたいことだと思っております。

私達、昭和 41 年の卒研生の出来が悪く、後に続く卒研生が居なくなったのではないかと責任を感じています。

( 今井先生：昭和 42 年に半導体部品室長になり、数人だったのが、一挙に 30 数人の組織になった。私だけの意向で卒研生を受け入れることができなくなったのが、そこで打ち切りになった本当の事情です )